

令和3年 1月 定例教育委員会会議録

令和3年1月19日（火）

山梨市教育委員会

令和3年1月 定例教育委員会 議事録

令和3年1月19日（火）午前10時から山梨市役所401会議室に召集された。

1 開会

2 教育長あいさつ

3 議事

① 不登校児童生徒の対策について

② 年度末・初めの予定について

③ その他

4 閉会

○出席者

教育長	澤田 隆雄
教育長職務代理者	武井 茂
委員	林 正文
委員	佐野 千春
委員	矢野 眞由美

○欠席者

なし

○事務局職員出席者

学校教育課長	竹川 一郎
生涯学習課長	加々美 修
学校教育担当リーダー	宮本 貴光
学校教育担当指導主事	岩下 秀人

○議事録作成者

書記	上野 治美
----	-------

3 議事の内容

司会 竹川課長 議事の進行を教育長お願いします

教育長

議事にはいらさせていただきます。

① 不登校児童生徒の対策について、事務局から説明をお願いします。

岩下指導主事 資料に基づき説明

・12月に山梨市不登校における諸課題対策会議を開催し、その資料に基づき作成しております。山梨市の12月末現在の不登校児童生徒の状況についてですが、不登校Aですが、30日以上欠席している小学生は7人と前月+1人、中学生は53人と前月より+6人でした。中学校の学年別内訳は、1年生17人、2年生11人、3年生25人でした。次に不登校Bについてです。15日以上29日以下欠席した小学生は3人と前月±0、中学生は9人前月より-5人となっています。中学生-5人については、不当校Aに入っています。学年別の内訳は、1年生2人、2年生5人、3年生2人でした。不登校A+Bを合わせた不登校率は、小学校が10人0,6%、昨年度1,0%でしたので改善傾向にあります。中学校が62人7,2%と昨年度7,1%で若干増える傾向になります。次に不登校への対応ですが、不登校は、「特定の子どもに特有の問題があることによって起こるのではなく、どの子にも起こりうる」として捉える必要があります。また、不登校児童生徒への対応として「令和の日本型学校教育」構築を目指して（中間まとめ（案））【概要】で示されたもの1点目として、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー配置時間等の充実による相談体制の整備、教育支援センターの機能強化、フリースクール等との連携促進、自宅等でのICT活用等多様な教育機会の確保など、学校内外における支援策を講じる保護者等に相談体制の整備、地域における家庭教育支援の充実についてあげてあります。2点目といたしまして、児童生徒の支援ニーズの早期把握、校内別室における相談・指導体制の充実等調査研究。今後も、不登校となった児童生徒の対応を様々な機関と連携を取りながら進めていくと同時に、新たな不登校児童生徒を出さない対策も組織的・継続的に進めていく必要があると考えます。

次に具体的な取り組みとして、一つ目として中1での不登校対応のための更なる少中連携の充実とし、小学6年生児童状況調査を実施しました。子育て支援課や健康増進課の情報も併せ、小学6年生児童の情報交換会を該当小中学校間で日程調整し実施を考えています。中学校では、不登校生徒の支援シートの作成です。支援シートの作成プロセスといたしまして、シート作成準備から記入としまして、病気や家庭の都合などはっきりした理由がなく8日以上欠席した生徒に対して、担任と学年主任がその生徒及び保護者との面談を実施するとともに、児童生徒理解・支援シートの作成を始める。2点目として、児童生徒が支援が必要な場合や支援の必要性が予想される場合のほか、保護者及び児童生徒本人からの希望により児童生徒等の共通理解を図る。3点目として、管理職、学級担任、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が中心となり、それまでに得た情報等を基にアセスメントを行う。4点目として、必要に応じて医療や福祉等の関係機関と協議し、組織的な支援計画を立てる。5点目として児童生徒本人に関わる全員で情報共有し、役割分担の確認を行う。シート作成後につきましては、共有した支援計画を基に、学校、家庭、関係機関で対応を行い随時情報共有する。実施状

況を踏まえて、必要に応じて計画を修正し継続した支援を行います。引継ぎについては、支援による結果を含めて現状を整理し、次学年にシートを渡し、情報を共有します。次学年においても、それまでの支援の状況を適切に把握・分析し、計画を作成し一貫した支援を行っていきたいと思います。シートにつきましては、現在作成中です。シートを中学1，2年生について今年度中に作成し、来年度から取り組んでいきたいと思っています。続いて、③不登校児童生徒及びその保護者と管理職等の面談の実施についてです。こうれまでも各学校で行ってきた担任や学年主任との面談だけでなく、管理職等との面談を実施し、児童生徒やその保護者の意識の変容を図る。④スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関との連携及び市単職員スクールカウンセラーの配置。⑤早期の教育支援センター・教育相談センターの設置についてです。教育相談体制をさらに充実させ、個々の不登校児童生徒の状況に応じた必要な支援を推進していきたいと考えます。その他の取り組みとしまして、①中1ギャップの解消のため、各中学校で1年生とスクールカウンセラーとの個人面談を行う。また担任との個人面談も実施し悩みの早期把握に取り組みたいと考えます。②不登校生徒へのオンライン授業の検討と③適応指導教室の試行について今後取り組んでいきたいと思います。④学習の基礎、基本の定着、生活習慣の改善、望ましい人間関係づくりなど、各学校としての対応力を高め組織的な取り組みをお願いしていきたいと考えます。最後に⑤期末テスト等の成績処理で個人順位は出さない等、環境づくりについても中学校内で検討をしていきたいと思います。不登校対策を含め教育課題検討会議を令和3年度も開き問題解決になればと考えています。説明は以上です。

教育長

・12月に山梨市不登校における諸課題対策会議を開き、そのことを受けましての説明がありました。ご意見をお願いいたします。

佐野委員

・対策を考えていただいてありがとうございます。先生の業務が増えて心配になります。山梨市の不登校児童生徒の男女の比率を教えてください。また県内、全国で不登校児童生徒がいない学校があれば教えてください。

岩下指導主事

・男女の比率について、中学校について不登校A男子28名女子25名、小学生男子5名、女子2名と若干男子が多いと思います。全国の不登校について把握していません。

教育長

・山梨市で不登校がいない学校は、日川小、山梨小、笛川小では不登校児童がいません。

林委員

- ・日川小の全校児童数は何人か。

教育長

- ・日川小150人くらい。笛川小も同じくらいだが、山梨小は220人くらいです。

佐野委員

- ・心配な児童が、今いなくても中学などで不登校になるかもしれないですね。

教育長

- ・小学校6年間と比べて、中学1年生から3年生までの3年間は心の成長が著しい。そのため中1ギャップが考えられる。どこの市町村も小学校より中学校が不登校が多いと感じる。

林委員

- ・全国で不登校児童生徒が増えている。

武井委員

- ・支援シートが出てくれば、多種多様な原因がわかってくると思う。各学校の不登校児童生徒の原因の分析が現在できていないと思う。学校内で支援シートの作成や分析を行い連絡会を開き、学校内の意識改革ができれば変わってくるのではないかと思う。市教育委員会との連携も大事だが、学校での横の連携を取りながら情報共有も大切だと思う。

林委員

- ・不登校対策について、各学校で本気で取り組んできたと思うが、保護者の意識が不登校に対し心配してないと感じる。休んでいても高校進学についても心配してないと思う。いじめについて今まで取り組んできた。これからは不登校対策の取り組みをすれば、徐々に落ち着いて変わってくると思う。

教育長

- ・中学校では、教育相談が位置付けられ、県の加配も受け取り組んできている。国でも、社会現象と考え、学校だけでは対応できないので、フリースクールでの対応も考えている。

林委員

- ・社会状況が変わってきたため、全校不登校児童生徒が増えている。

武井委員

- ・親も心配だと思うが、親の相談体制はどうなっているか。支援員も配置されている。組織的な取組はどうなっているか。サポート教室など充実しているが不登校対策として機能しているか。相談体制が起動している等、学校の意識を変えていくことが大切だと感じる。

教育長

- ・スクールカウンセラーの取組を、南中、北中で行っているが、学校に登校しな

いと対応ができない。何で登校できないか等、面談して話を聞くが、楽しいことは参加できるが見つからない子が多い。昔はいじめで学校に来れない子が多かったが、今は違ってきている。

武井委員

・人間関係で不登校になるのではない。保健室登校はできるがそこから変わることが難しい。子ども自身の状況を変えるためにはどうしたらいいか対応が難しい。

矢野委員

・何かの関係で学校に来れないから、子どもに寄り添って原因を突き詰めること、それを引き出すことが重要だと思う。中学校で不登校の子どもが支援シートがあれば変わっていくと思います。親子面接で不登校の子が全員来ているかわからないが、個人面接が重要だと思う。

武井委員

・不登校の生徒が、何年か不登校が続いていることを考え対策が重要となってくる。

岩下指導主事

・現在不登校が小学校6年が5名 中学3年が23名。卒業後減るが中1ギャップでまた増えてしまう可能性もある。小学校へ心配な子どもの調査を実施し、岩手小学校以外出てきている。この子たちが不登校にならないよう、中学校で取り組んでいけたらと考えます。

武井委員

・不登校の生徒の対応だが、部活動での人間関係も視野に入れることも考えられる。

林委員

・不登校の原因は多種多様だと感じる。これからやってみることで、随時対応を考えていくしかないと思う。

武井委員

・来年度の課題だと思う。

教育長

・市単のスクールカウンセラーを要望するなどこれから考えられる。

山梨市教育課題検討会議とし、不登校対策を中心とし進めていきたいと考えています。教育委員の方にも出席していただきたいと考えております。令和3年度4回くらい会議を予定しています。

では①不登校児童生徒の対策について終わりたいと思います。

続きまして② 年度末・初めの予定について事務局からお願いします。

竹川課長 資料に基づき説明

・卒業証書授与式の実施についてのガイドラインとしまして、教育委員会については、教育長、教育委員の方の出席以外はメッセージの配布にいたします。市長についても、

出席される学校以外についてはメッセージとさせていただきました。議長（議会）につきましては原則簡素化としまして参加をご遠慮いただきます。式典につきましては、時短で行い会場内ではマスクの着用をお願いする。卒業証書授与については、飛沫の飛散を考慮したうえで各校に応じて行うようにしました。入学式についても同じような内容で行う予定で考えております。

教育長

・卒業式の参加状況について説明がありました。教育委員の方には励ましのことばの朗読をお願いします。ご意見等ありましたらお願いいたします。

佐野委員

・保護者1世帯2名までですが、保育園に通ってない未満児など小さいお子さんの参加はどうか。

岩下指導主事

・学校によってですが、4年生からなど全員参加でないことがあります。その時は参加しない児童は自宅で過ごしますので、未満児の方についても同じ対応だと思えます。

教育長

・それでは、出席のほうの確認をお願いいたします。

上野

- ・中学校のほうから決めていきたいと思えます。
- ・林委員が笛川中学校でお願いします。

教育長が山梨北中学校、山梨南中学校は武井委員さんでお願いいたします。

小学校を決めていきます。

日下部小学校を佐野委員、岩手小学校に林委員、笛川小学校に武井委員
加納岩小学校に矢野委員、教育長後屋敷小学校でお願いいたします。

日川小学校、山梨小学校、八幡小学校、つつじ幼稚園はメッセージとなります。

以上です。

教育長

・卒業式について出席者が決まりました。ありがとうございます。転退職職員挨拶式及び転入職員挨拶式は、今回も3蜜を避けることを考え行いません。③その他について何かありますか。

竹川課長

・特にありません。

教育長

その他について内容ですので以上で議事を終了します。

議事終了